

## 〈 第 33 回 J M R A トピックスセミナー 〉

### インターネット調査とそれを巡る諸調査法の可能性 The Internet and Other Survey Opportunities

#### 会期・会場

日 時： 2003年10月23日(木) 13:30~17:00

会 場： 東京グリーンホテル・水道橋2階  
東京都千代田区三崎町1-1-16  
TEL 03(3295)4161

テーマ： 『インターネット調査とそれを巡る諸調査法の可能性』

講 師： Michael Patrick Couper 氏  
(ミシガン大学, ISR:社会調査研究所, 助教授)

オーガナイザー：大隅 昇(統計数理研究所), 吉村 幸(大学入試センター)

定 員： 80名(定員になり次第締め切らせていただきます)

#### 申し込み方法

FAX参加申込書に必要事項をご記入の上、下記申し込み先にFAXでご送付ください。申込書が到着次第、参加証を送付いたします。また、お電話でのお申し込みもお受けいたしますが、その場合にも申込書をFAXでご送付ください。E-mailの場合は、申込書を参考に必要事項を送信してください。

#### 申し込み先

社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会  
〒112-0004 文京区後楽1-1-5 第一馬上ビル  
TEL:03(3813)3577 FAX:03(3813)3596  
E-mail:info@jmra-net.or.jp

#### 参加費

JMRA会員社(者)1名 26,667円 + 消費税 = 28,000円  
一 般 1名 31,429円 + 消費税 = 33,000円

現金書留：現金書留の場合は、申し込み先にご送付ください。

銀行振込：UFJ銀行 飯田橋支店 (普通)4669542

：みずほ銀行 飯田橋駅前支店 (普通)660769

(銀行振込時には振込手数料は差し引かずにお問い合わせください)

お 願 い： 参加費の払い戻しはいたしませんので、お申し込みされた方がご都合の悪い場合は代理の方がご出席ください。また、当日テーブルレコーダー、デジタルカメラ、ビデオ等の持ち込みは、固くお断りいたします。

なお、参加費は10月22日(水)までにお支払いください。



社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会

## < 参加のおすすめ >

### セミナーの趣旨

インターネット調査は、1990年代半ばから欧米、とくに米国で急速に普及した調査法です。また日本国内でも1997年頃からかなりの普及をみていることは周知の通りであります。インターネット調査に対する調査機関、市場調査関係者、さらにはマーケティング分野関係者の関心は高く、またインターネット調査専門のベンチャー系企業の、市場調査分野等への参入も見られます。

しかし日本国内では、多くの場合、インターネット調査の表面的な利便性ばかりが強調されてきました。すなわち、従来型調査に比して優れており、しかも簡便、迅速、かつ廉価に実施できる便利な調査法という安易な考え方のみが先行し、インターネット調査の本質的な特性の解明、解決すべき無数の課題の研究については、ともすると看過されてきました。

しかも、「科学的な調査方法論」としての理解が不十分のまま、インターネット調査を、従来型調査を越える優れた調査法のごとく主張する論拠のない空理空論が依然としてみられます。その結果、調査の品質面の問題だけでなく、「調査」自体への信頼感やモラルまでもが崩れつつあるのが実状です。そうした中で、情報技術の進展やブロードバンド化に伴い、今後はインターネット調査が、従来型調査法に代替し、あるいは併用される方法として、しかるべき位置を占めるであろうと思われませんが、併せて、調査法としての着実な研究がなされるべきであります。

JMRAでは、こうした状況に危機感を持ってインターネット調査に関連するセミナーを繰り返し開催し、正しいインターネット調査の利用法はどうあるべきかを訴えてきました。近時点では、さる6月に「JMRA 研修セミナー：インターネット調査 - 質の評価と標準化に向けて - 」を開催し、研究者と調査機関の産学協同研究による実験調査結果を広く開示するとともに、インターネット調査の諸問題や調査法としてのあるべき姿を、最先端の成果や具体的な指針として示してきました。このように、微速ながら、インターネット調査を調査業務として適切に運用すべきとの意識も高まりつつあると思われまます。

しかし、残念なことに、日本国内の「研究事情」は依然として欧米のそれに比して誠に貧弱で、一部の研究者とそれに賛同する少数の調査機関との地道な実証継続研究を除いては、インターネット調査に関する基礎研究はもとより、実験検証や従来型調査との比較検証等、調査法の基本的な部分での体系的な研究が不十分と言わざるを得ません。さらに、米国でも、調査法の主流であった電話調査の実施環境が次第に変容し、適切な調査を行うことが難しくなってきたと言われておりますが、日本国内の調査環境は、これにもまして悪化の一途を辿っており、こうしたことから、従来型の調査（面接、郵送、電話他）から、調査研究が十分でないまま、インターネット調査への移行が益々加速されることもやむを得ないというのが実状です。

これに対して、欧米諸国の研究を子細に眺めると、決してそのようなことはなく、インターネット調査を巡る周辺の調査環境、調査方法論の研究を着実に進めていることは明らかです。例えば、調査データ収集のための調査方式（調査モード）、サンプリングの問題、調査誤差の体系的な研究（カバレッジ誤差、標本誤差、調査不能誤差、測定誤差等）、調査票設計の回答に及ぼす影響評価、そして補正法の研究と、様々な観点から研究が行われ、多数の研究成果が報告されております。

このようなことで、日本国内の調査環境の危うい状況を新ためて認識すると同時に、「正しいインターネット調査はどうあるべきか」「調査法としての特性を的確に把握し科学的に評価するにはどのように考えるべきか」を熟考すべき時期にあると考えられます。

こうした中であって、この度、ミシガン大学、Michael Patrick Couper 先生（Mick P. Couper 先生）をお招きすることが実現できる運びになりました。インターネット調査は元より社会調査全般について、永年にわたって精力的に研究を続けてこられた Couper 先生から、米国における「インターネット調査」の実態を詳しくご紹介いただくと同時に、他の調査法（電話

調査：CATI・CAPI、郵送調査等）との関連、今後の調査環境の変化や進むべき方向などについて、総合的にご紹介いただく機会を設けました。とくに、今回はオーガナイザーから幾つかの希望事項を提案させていただき、以下のような内容についてお話しいただくことになっております。

- ・ インターネット調査とくに Web 調査と従来型調査法との比較考察
- ・ サンプルの考え方、誤差の問題（とくにカバレッジ誤差）
- ・ 調査不能・無回答（non-response）の問題
- ・ 調査測定環境の抱える問題、コスト削減の課題、実査時間（処理速度）の問題
- ・ 他の調査技法の実状（例：IVR: Interactive Voice Response、モバイル PC、等）
- ・ インターネット調査の今後の展開と可能性

なお、この貴重な機会を有効に活用するため、また話題が広範にわたるため、質疑応答の時間の余裕をとって、参加者の皆様からのコメントや質問にお答えいただき、また Couper 先生の豊富な体験、研究成果に基づき、参加者の皆様との実りある意見交流を行いたいと考えております。またこれが、日米間の研究交流の発展のきっかけとなり、正しい理解のもとに科学的な調査方法として、インターネット調査の普及が進むことを期待するものです。

このようなことで、マーケティング・リサーチ関係者はもとより、企業のマーケティングご担当部門の方々、広告代理店等でインターネット調査にご関心のあるの方々、そして関連研究者諸氏のご参加を、心よりお待ちしております。

#### Couper 先生のご紹介

Couper 先生は、現在、ミシガン大学、ISR（Institute for Social Research；社会調査研究所）の助教授（Senior associate research scientist）を務められております。ISR は、ミシガン大学にある調査研究機構の一つで、米国における著名な調査研究の一つとして広く知られております。また、インターネット調査研究について多少なりとも関心を持った方々は、Couper 先生のお名前を聞いただけで、この研究分野で多数の優れた研究成果をあげておられることをご存知のことと思います。そのいくつかを以下に列記いたしますが、これを含めて、Couper 先生は、米国のみならず世界的に、この分野の研究を先導するリーダーの一人として活発に研究活動を進めておられます。

#### 編著書（最近の代表 2 編のみ）

Couper, M.P., Baker, R.P., Bethlehem, J., Clark, C.Z.F., Martin, J., Nicholls II, W.L., and O'Reilly, J. (eds.) (1998), *Computer Assisted Survey Information Collection*. New York: Wiley.

Groves, R.M. and Couper, M.P. (1998), *Nonresponse in Household Interview Surveys*. New York: Wiley.

ここで、前者はいわゆる「CASIC: Computer Assisted Survey Information Collection」（電子的調査情報取得法）を巡る最新研究の総合報告を含むものです。後者も、調査研究の中心的課題の一つである調査不能に関する諸研究を集めた論文集です。

#### 論文（2000～2003 年までの主要論文のみ）

(1) Tourangeau, R., Couper, M.P., and Steiger, D.M. (2003), Humanizing Self-Administered Surveys: Experiments on Social Presence in Web and IVR Surveys. *Computers in Human Behavior*, **19**: 1-24.

(2) Couper, M.P. and de Leeuw, E.D. (2002), Nonresponse in Cross-Cultural and Cross-National Surveys. In Harkness, J.A., van de Vijver, F.J.R., and Mohler, P.P. (eds.), *Using Surveys Across Cultures and Nations*. New York: Wiley, pp. 157-177.

(3) Couper, M.P. and Groves, R.M. (2002), Introductory Interactions in Telephone Surveys and Nonresponse. In D.W. Maynard, H. Houtkoop-Steenstra, N.C. Schaeffer, and J. van der Zouwen (eds.), *Standardization and Tacit Knowledge; Interaction and Practice in the Survey Interview*. New York: Wiley, pp. 161-177.

- (4) De Rouvray, C. and Couper, M.P. (2002), Designing a Strategy for Capturing Respondent Uncertainty in Web-Based Surveys. *Social Science Computer Review*, **20** (1): 3-9.
- (5) Lozar Manfreda, K., Couper, M.P., Vohar, M., Rivas, S., and Vehovar, V. (2002), Virtual Surveys and Web Surveys. In A. Ferligoj and A. Mrvar (eds.), *Developments in Social Science Methodology. Metodoloki zvezki*, **18**. Ljubljana: FDV, pp. 187-213.
- (6) McCabe, S.E., Boyd, C., Couper, M.P., and others (2002), Mode Effects for Collecting Alcohol and Other Drug Use Data: Web and US Mail. *Journal of Studies on Alcohol*, **63** (6): 755-761.
- (7) Couper, M.P. (2001), Web Surveys: A Review of Issues and Approaches. *Public Opinion Quarterly*, **64** (4), 464-494.
- (8) Couper, M.P. (2001), The Promises and Perils of Web Surveys. In A. Westlake et al. (eds.), *The Challenge of the Internet*. London: *Association for Survey Computing*, pp. 35-56.
- (9) Couper, M.P., Traugott, M., and Lamias, M. (2001), Web Survey Design and Administration. *Public Opinion Quarterly*, **65** (2): 230-253.
- (10) Couper, M.P. and Hansen, S.E. (2001), Computer Assisted Interviewing. In J.F. Gubrium and J. Holstein (eds.), *Handbook of Interviewing*. Thousand Oaks, CA: Sage, pp. 557-575.
- (11) Crawford, S., Couper, M.P., and Lamias, M. (2001), Web Surveys: Perceptions of Burden. *Social Science Computer Review*, **19** (2): 146-162.
- (12) Groves, R.M. and Couper, M.P. (2001), Designing Surveys Acknowledging Nonresponse. Chapter 1 in C.F. Citro, R.A. Moffitt, and M. Ver Ploeg (eds.), *Studies of Welfare Populations: Data Collection and Research Issues*. Washington, DC: National Academy Press.
- (13) Lepkowski, J.M. and Couper, M.P. (2001), Nonresponse in Longitudinal Household Surveys. In R.M. Groves, D. Dillman, J. Eltinge, and R. Little (eds.), *Survey Nonresponse*. New York: Wiley, pp. 259-272.
- (14) Couper, M.P. (2000), Usability Evaluation of Computer Assisted Survey Instruments. *Social Science Computer Review*, **18** (4): 384-396.
- (15) Fuchs, M., Couper, M.P., and Hansen, S.E. (2000), Technology Effects: Do CAPI or PAPI Interviews Take Longer? *Journal of Official Statistics*, **16** (3): 273-286.

#### カリキュラムの内容

| 時 間           | 内 容  |
|---------------|--|
| 13:30 ~ 16:00 | インターネット調査とそれを巡る諸調査法の可能性<br>- The Internet and Other Survey Opportunities -<br>Mick P. Couper 先生 ( ミシガン大学、ISR、助教授 )<br>(* ) 逐次通訳 ( 日本語・英語 ) があります<br>(* ) 途中で小休憩が入ります |
| 16:00 ~ 16:20 | 休 憩  |
| 16:20 ~ 17:00 | 質疑応答<br>(* ) 逐次通訳 ( 日本語・英語 ) があります   |

#### 《 会 場 案 内 図 》



東京グリーンホテル水道橋 2階  
千代田区三崎町 1 - 1 - 16

JR 水道橋駅 東口より 徒歩 4分  
都営地下鉄水道橋駅 A2 出口より 徒歩 5分

